

特集

29年間の歴史～市民総参加でにぎわう

越後加茂川夏祭り

第1回目のポスター（昭和61年）
尺玉60連発は大迫力でした。



市街地の中心部を流れる加茂川。現在は、市民の憩いの場となっていますが、過去には幾度も氾濫を繰り返し、特に昭和44年の水害では大きな被害を受けました。その後、川幅を2倍に広げるなど抜本的な河川改修が行われました。加茂川が復興したことから、地域おこしと活性化を目的に、市民総参加の夏祭り「セプトとして昭和61年「越後加茂川夏祭り」が誕生しました。

花火大会や盆踊り、コンサートをはじめ、毎年、実行委員会が工夫を凝らした手作りのイベントが加茂川河川敷を舞台に行われてきました。今では夏の風物詩として、すっかり定着した越後加茂川夏祭りの歴史をご紹介します。

記念すべき第1回目は今から29年前の昭和61年8月15日（金）に「かも夏まつり」と称して華々しく開催されました。第2回目からは、名称を現在の「越後加茂川夏祭り」と改め、加茂川を舞台とした祭りとして定着するようになりました。

今では恒例となつた夏祭りのファイナーレを飾る2km

大ナイアガラは、第3回目で初めて実施しました。8つの橋を結び、目の前を流れの光のシャワーが川面に映る姿はとても幻想的です。

平成4年の第7回を実施する際に「夏祭りを考える



加茂川河川敷を仮橋で結ぶ夏祭り会場。灯りがともる頃、多くの人が会場に集まっています。

市民の会」を開催し、協議の結果この年から実施日を8月14日と固定することになりました。



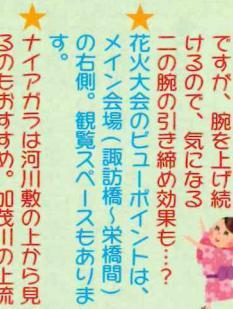
2km大ナイアガラは昭和63年にスタート。光が縦断する迫力の点火から、川面に映る穏やかで幻想的な光景へと変化していきます。

**夏祭りを
もつと楽しむ
ポイント★**

打ち上げ花火、ナイアガラ花火、噴水花火等、色々な花火を目の前で楽しめるのがこの夏祭りの特徴。点火前のカウントダウンは会場内が一つになって盛り上がる瞬間です。

大盆踊り大会、加茂川夕日コンサートや桃釣り大会、灯ろう流しなどのイベントは、加茂商工会議所青年部、（一社）加茂青年会議所が計画し、当日の運営も、お盆休みを返上してがんばっています。その他にも市民、商工会議所会員事業所をはじめ、たくさんの方々で越後加茂川夏祭りは支えられているのです。

近年では市外、県外からも多くなっています。加茂の夏を代表するイベントとして、地域全体で作り上げていきましょう。



加茂川夕日コンサートでは、毎年さまざまなアーティストが河川敷の屋外ステージで歌やダンスを披露。



目前で大迫力の花火を観られるのは越後加茂川夏祭りの魅力。

祭りのクリマックスに打ち上げられる2尺玉。上空500mで開く大輪の花は色、音、形で魅了してくれます。